Bブロックの「火」ベスト3です。

どきどきの初セッション。
あなたなら、どの作品を推しますか。
そして東工大生が1位に選んだのは・・・？

答えは作品のあとの解説にてどうぞ。

火を思う日

火を使うこと。これによって人類の生活は大きな変革を迎え、また、現在までに火を生み出し、扱うことができる生き物は人間を措いて他にいない。つまり「火」というものは人類の手によってこの世に生まれたもので、人類あってのものなのだ。人類は火を、炎を征服している。そう思っていた、十年前の私。

火を生み出せる動物は確かにいない。しかし火を生み出すものなら他にもある。天空より落ちる青白色の落雷然り。地中より湧き上がる赤熱の溶岩然り。結局のところ、人類が生み出したのは、自分たちが利用できる程度の、ごく小さな炎にすぎず、自然が生み出す強大な炎は、人智の及ぶところのものではない。そう思っていた、十五の夜。

私が間違っていた。人類はごく小さな火すらもコントロールできてはいなかった。やつらは、図体は小さくとも、時に大きな被害をもたらすことがある。彼は私に牙をむいた、大切なものを私から奪った。彼の手によって、ほんの十分前までは「豚肉」と呼ばれていたものがもはや影も形もない。今日のおかずをどうしろというのか・・・。

私が甘かったのだ。彼らは人類の味方でも、敵でもない。中立なのだ。助けを求めれば手を貸してくれるが、常に味方につけておくためには、監視し続ける必要がある。私はそれを怠った。はじめから彼を味方だと思っていた私の負けである。そんな私に彼を責める資格はない。仕方ない、今日はどこかに食べに行こう。そう思った、よく晴れた春の日の昼下がり。

炎は照らす

「キャンプファイヤーで何する?」

高校一年、四月の下旬のことであった。

俺のいた高校では、五月の終わりにいわゆる「林間学校」をすることになっている。そしてそこでは定番のごとくキャンプファイヤーも行われるのである。あと一ヶ月ぐらい、そろそろすることを決める時期であった。

キャンプファイヤーは盛り上がりとして一、二を争うイベントである。ここはクラス一丸となって盛り上げたいところであった。しかし会場が若干狭い。そこでグループを三つに分け、男子二十一人、女子二人というやや異質なグループに俺は所属することとなった。

さて、キャンプファイヤーですることとは何だろう。コントをするのは筋違い。やはりダンスが王道だろう。そこで重要なのが曲決めであった。盛り上がるためには、ノリがよく、かつメジャーな曲でなければならない。これらの条件を満たす曲とは、議論の末にある曲にたどり着いた。

フィッシュファイト。

野猿のラストシングルで、各地の淡水に分布する全長十五〜二十二センチのコイ科フナ属の硬骨魚をテーマに歌ったあの曲である。

一同この選曲に納得し、さっそく振り付けに取り掛かった。

振り付けは思いのほか順調に進み、本番まであと二週間と迫ったある日、重要なことに気がついた。

当日の衣装である。本家本元の被り物はおろか、おそろいのTシャツでさえそろえる金と時間がなかった。だがダンスはそろっていても、衣装がバラバラでは一体感が出ない。仲間内で一体感がなければ観客と一体感など作り出せるはずもない。それはつまり盛り上げることが出来ないことを意味していた。

金も時間もかけずにおそろいの格好をする方法、答えは一つだった。

脱ぐしかない。

もちろん全裸ではない、半裸である。ただこれだけではややインパクトに欠ける。議論の末の最終決定案としては、半裸で腰にはバスタオルを巻き、顔には水中眼鏡をかける、という何の意図も感じられない勢いに任せた衣装となった。だがここで問題浮上。女の子はどうする。

先に述べたが女の子も二人参加しているのである。だがこの格好を強要すると刑法に引っかかる。そこで直接聞いてみた。

なんなら私たちも脱ぐけど。

もちろん冗談である。ただそれを一瞬真に受けてしまった男子一同、十五の切ない性である。

結局女の子の衣装は個人に任せることとなり、ついに俺たちは都会のジャングルから大自然へと旅立った。

飯盒炊爨などの定番メニューをこなしていると、あっという間に日は過ぎた。そして迎えた三日目の夜。キャンプファイヤーは始まった。

順番はわりと早かったため、すぐに出番はやってきた。まだ空はほんのり明るかった。

曲が始まった。

フィッシュファイト!・・・フィッシュファイト!

叫び、踊る。

鮒!鮒!鮒鮒鮒鮒!

叫び、踊る。

フィッシュファイト!・・・フィッシュファイト!

叫び、そして踊りきった。

もう空はすっかり暗くなっていた。だが俺の目の前で煌々と燃える炎は、達成感に満たされている仲間たちと、テンションが上がりきった観客とを、はっきりと照らしていた。

四月の下旬のあの日の会話。

「キャンプファイヤーで何する?」

「やっぱ全員が盛り上がるやつでしょ。」

「全員ってのは難しいんじゃない。」

「確かに難しいけどさ、でもやるからには盛り上げたいじゃん。」

「まあね・・・。」

「大丈夫。俺たちが楽しくやってれば、周りもついてくるよ。」

「・・・だね。そういったこと、できるといいね。」

五月の下旬のあの日の出来事。

炎に浮かんだみんなの顔を、俺はきっと忘れない。

火男

最近は風呂で火を使うことも無くなって寂しい限りでさぁね。台所でも、あーなんだ「でんじちょいりき?」なんかはやっとるね。

お前いったい誰だって?あー、ずーっと昔はちゃんとした名前もあったように思うんだけども忘れちまったよ。なーがいこと「ひょっとこ」って呼ばれとるね。そ、「火男」、「ひおとこ」で「ひょっとこ」だよ。呼びやすくていいだろ、ひょっとこ。

何、顔が面白い?こりゃぁ一生懸命、火に風送るために口すぼめてたら癖になっちまったんだよ。片目つぶってんのは目に火の粉入ったらあーぶねぇだろ。頭の手拭いも火の粉よけだよ。あんた笑ってけど、これでもおらぁ火の神様なんだぞ。けっこお大変なんだべ。まぁ昔っから屋敷の坊っちゃん、嬢ちゃん達にも笑われてたけどもね。みんなが楽しけりゃそれでまぁええよ。そもそも昔はいまほど火の扱い簡単じゃねぇし「先祖の火を絶やすな」っていうぐらい火は大事で、火がしっかり守られてりゃ家も安泰だったんだーな。今だってーおらはいろんなとこ守っとるんよ。おおっとちょっと調子ん乗って自分の仕事のことぉ喋りすぎたやね。あんたぁどうなんだい。

仕事が辛ぇか。仕事が少しぐらい辛くたって、笑っていなくちゃぁ。あんたのご先祖様はあんた方の為に生き抜いたんだぁよ。おら見たんだかんね。諦めちゃぁ駄目だ。あんたぁ火を絶やしちゃならねぇよ。先祖の火も心ん火もぉね。まぁ酒でものみねぇ。祭り、花見、酒、おらぁまわりが笑っていることが大好きでね。ありがてぇことに、しょっちゅういろんなとこで、おらのお面も「おかめ」なんてぇ美人と隣りあわせで売っとるし、面を被ってひょっとこ踊りなんてぇこともやってくれてら。おらが家の火を守ってるってことを忘れててもー、おらのこと自体は忘れねぇでくれるのは嬉しいやね。なげぇことやってきたぁ甲斐があるってもんだぁ。だども、おらぁ忘れられても、みんなが火を継いで楽しくやっててくれりゃぁ、おらぁそれでええんよ。

あーよいしょと。花見の最中すまねぇなぁ、あんまり遊んでっとぉ火事になっちまう。まぁどっかで会うやね。心ん火ぃ絶やすなや。達者でなあー

「火」本選Ｂブロック作品講評

１　フレッシュマン　5位　7ポイント

まさにこの季節にふさわしいまっすぐな思い。さあ、燃やしてやるぞ、というポジティヴな攻め姿勢が熱く伝わってきました。大学生限定にしないほうが、より広がりを持てたのでは？

２　生命（いのち）の灯火　11位　0ポイント

ろうそくに生命を託すという設定は、今回いくつもありましたけれど、これは「一番明るい時」に着目したところがユニークと読みました。
ラスト１行、なくてもよいのでは？

３　僕は火を見る　4位　9ポイント

幼時の悲しい記憶をかぶらせつつ日常の光景へ、という二重写しのドラマ、フォントも工夫されて巧みに演出していただきました。

４　好奇心　9位　1ポイント

まんま炎への語りかけ。純な子供の詩のようで、なごみます。でも握手できるってどんなことか、もう少し想像させて欲しかった。

５　蝋燭　7位　4ポイント

ひとりの男の儚い最期。シンプルに映像だけで見せていただきました。
たんたんと事実のみなので、どう感興を乗せるか、ちょっと苦労しましたけど。

６　「火」　8位　2ポイント

火＝人間、水＝地球と置き換えて論理構成したアイディアはよろしいかと。
けれど、比喩によって論理をまとめることはできても、相手を説得するのはやはりむずかしく、ことわざを論拠にしたりと苦しい論理展開に見えてしまいました。
真剣な意図をきっちりくんで惜しい作品に選んでくれた班が３つも。今週の「惜しい大賞」です。

７　四面楚歌　5位　7ポイント

巨大インパクト！
タイトルでオチを付けたワザもおみごとでした。

８　火と煙　11位　0ポイント

うーん、敢えてリクツっぽくしたのでしょうけれど、得心する展開には読めなかったです。辞書の定義をからかおう、というアイディアは、もう一工夫するとおもしろくなりそうなネタなのですが。

９　火を思う日　1位　25ポイント

あ～あ。焦げた豚肉をあとに、しょんぼり食事にでかける光景がユーモラスで、前半の大上段の議論との落差がおみごと。
なるほど、まじめに書き始めて途中で路線変更という楽屋裏でしたか。かえってそれがネタ一辺倒より力になったのかも。
丸文字フォントのネタ作品が首位、おめでとう！と祝福しつつ、う～むう～む今年のBブロックはこの路線で行くのかぁ!?

１０　炎は照らす　3位　15ポイント

たいせつな思い出の１ページ、読ませてもらえた気分です。みごとな盛り上がりが、炎の熱さともども伝わってきて、炎に揺れる仲間の笑顔、くっきり体感できました。実話の強さありあり。
で、女の子は？？
「脱ぐしかない」のインパクト等が６つもの班でヒットして、みごと今週のイチオシフレーズ大賞ゲットです。おめでとう。

１１　火男　2位　19ポイント

ひょっとこに行った発想の巧みさと語り口の個性が良さと読みました。
説教もほどほどに、というさじ加減が好印象で、楽しけりゃ、それでいいさ、というひょっとこ哲学がしっかり伝わってきました。

１２　夏の火　9位　1ポイント

景気のよい花火にロスト・ラヴを重ねたミスマッチ感が個性でした。
涙雨気分、せつなく今週の読み納め、ということで。